

令和2年度 第2回南部町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和2年11月30日（月） 午後1時30分 開会
午後3時50分 閉会
- 2 開催場所 南部町役場本庁舎 2階 大会議室
- 3 出席者
・町長 佐野 和広 ・教育長 芦澤 和彦 ・教育長職務代理者 河内 留美
・教育委員 佐野 保仁 ・教育委員 入月 一巳 ・教育委員 山本 純司
- 4 事務局等の出席者
町長部局 秘書政策監 望月 一弥 総務課長 滝 基成
教育委員会事務局 学校教育課長 渡辺 雄治 生涯学習課長 近藤 利也
- 5 協議事項
(1) 第3波コロナ感染拡大とインフルエンザの流行対策
(2) 文化財の保護・保全、継承と周知（情報発信と有効活用）の活動
(3) 生涯学習施設の有効利用と多様な学習機会の充実
(4) その他
- 6 議事経過の概要
次のとおり

1 開 会 （河内教育長職務代理者）

本日は第2回南部町総合教育会議ということで、依然収束が収まらないコロナ、生涯学習関係で文化財等、議事の方も沢山ありますが、よろしく願いいたします。それでは、総合教育会議を始めたいと思います。

2 町長あいさつ

今、河内委員からお話がありましたように、コロナの収束が見えません。各地方にも影響を及ぼしているということで、大変心配をしておりますし、この傾向は当然続くと思います。私は先週、その前の週と、東京に出張がありました。泊りもありましたので、当然、食事もしたのでお店にも入りましたが、各店ともしっかりと対応を行っています。入口のサーモによる測定、消毒等、全ての面で対応は取られております。逆に田舎の方が緩んでいるのではないかと感じました。これから年末年始を迎えるにあたり、今一度、襟を正す意味でコロナ対策をしっかりと取っていきたいと思います。

本日は、第2回の総合教育会議ということで、学校の方はこれまで懸案でありました修学旅行を終えることができました。子どもさんたちにして見れば、従来の修学旅行と違い、非常に思い出に残ったのではないかと考えています。また、教育長から言われていますが来年度の修学旅行についても、しっかりとコロナ対策の予算は付けたいと考えています。子どもたちにとっては、一生に一度のことですから良い思い出を持ってもらい、南部町は良いところだなと改めて感じていただければと思っています。

これからも、いろいろとあると思いますが、今日一日、2時間ほど掛かるとは思いますが、よろしく願いします。

3 教育長あいさつ

始めの言葉や町長の言葉にもありましたように、コロナ禍の中でも私たちは特に学校教育について、責任を持たなければならない立場にあります。各校はそれぞれが今やるべきことをきちんとしながら、何とか今日まで無事にやってきましたが、ご存知のように今後は、何時、何が起きてもおかしくない状態が続いています。町長の話にもありましたとおり、運動会、修学旅行、音楽発表会等は無事に終わりましたが、これから冬を迎える中でコロナばかりではなく、インフルエンザ、ノロをはじめとした感染症が待ち構えている中で、どう過ごしていくのか。今日は、そのような話もいろいろと出てくるかもしれません。限られた時間ではありますがよろしくお願いをしたいと思います。今日は内容的に感染症の問題、生涯学習、文化財と短時間で言い尽くせる内容ではないと思いますが、皆さんで共通理解を持ちたいということで、普段できないような話題を盛り込みました。よろしくお願いします。

4 議事

(1) 第3波コロナ感染拡大とインフルエンザの流行対策

(佐野委員) コロナについては、第3波が来たということで対応していますが、あいさつで町長さんも言われましたが、もう一度、自分たちがすべき対策のことを初心に帰り、考えなければならないと思います。それぞれの学校からは、保健だより等でもう一度感染予防対策を徹底する必要があると思います。ただ、未来塾などの時に子どもたちを見てみると、学校の指導が徹底されており、感染予防対策をしっかり守っています。とにかく、私たち大人が徹底していくべきだと思っています。心配なのはコロナで熱が出た場合と、インフルエンザで熱が出た場合の違いは、どこで判断すればわかるのか難しい問題だと思っています。

(教育長) 私たちも注意深くいろいろな情報に接しています。当初と違い、ここへ来て適切な情報が入ってきます。現状では、インフルエンザは子供が運んで、コロナは大人が運ぶと言われていています。インフルにしても、コロナにしても、感染しても無症状の人がいます。油断することなく、今やるべきことをやるしかない。佐野委員からも話されましたが、子どもたちは非常に徹底されています。これからは学校もそうですが、家庭での取り組みが必要です。

(山本委員) 資料に南部中学校の保健だよりがありますが、汎用的にも段階を追ってコロナの情報、対応等もしっかりと明記されています。保健だよりは共通ですので、小学校も同じだと思います。そうすると学校は、学校に来た瞬間から非常に注意を払って、クラスターにならない対応をしていると思います。今、懸念されるのは家庭の中ではどうかということだと思います。家族の中で共通理解を日頃から共有しておくことが大事ではないかと思いますので、いざという時の問い合わせ先など、パッと見てわかるようなものを家庭の目につく場所に張ってあればいいなと前々から思っています。

(町長) 子どもたちは反面教師で、学校は徹底されています。やはり家庭に広めてもらうことが大事です。私が一番心配しているのは、コロナで何が怖いかと言うと後遺症です。後遺症を大いにアピールすれば、家庭でも取り組みが違うのではないかと思います。

(教育長) ワクチンも信頼できるものは存在しないし、ワクチンの後遺症も報告されています

ので、当分の間は、この戦いは続くと思います。完全にゼロにすることはできませんが、リスクを如何に下げていくかと言うことに尽きると思います。

(山本委員) 感染のリスクから言えば、子どもたちよりは大人たちの方があります。例えば町外へ働きにいつている人も勤め先では皆が注意していると思います。と思いますがそれ以外の場面ではリスクが高まりますので、やはり自己規制でしかないかと思います。

(教育長) やはり大人が見本を示すしかない。また、大声で話をするとリスクが増えますのでそのような場面は極力避けることが大事です。小中学校では合唱発表会を実施しましたが、一時は中止の指示を出そうと思いましたが、しかし、校長さん達が様々な工夫をし、感染対策を講じ、リスクを回避するからと言うことで実施しました。

(佐野委員) 今は学校があるから子供も家庭も注意をしていますが、心配するのは冬休みに入り正月が来るという大きな行事があります。その時にそれぞれの家庭が少し羽目を外すのが一番子どもに感染リスクが高いため、冬休みに入る前に保護者へも再度注意喚起をする指導も必要ではないかと思っています。

(秘書政策監) 学校では、コロナ感染拡大とインフルエンザを阻止する取り組みとして、冬期休暇中に家族で町外等へ出掛ける場合は、届出等の取り組みはするのでしょうか。

(教育長) そこまではできませんが、学校管理職会等で自粛要請は一つの指導としてやっていきたいと思っています。

(佐野委員) 今、コロナは流行っていますが、文科大臣は学校の臨時休業は行わないような発表もあるわけですが、仮に今後、状態が変化して学校が臨時休業になるような事態を求められた場合、臨時休業にしてしまうのか。それとも、分散登校などで対応していくのか。そのあたりも町の中で考えながら進んでいければよいと思います。

(教育長) 前回の流れの中で皆さんが学んでいますので、いきなり休業に入ることはないと思います。学びをどう保障していくのかということを中心に考え町長と対応に当たりたいと思います。

(町長) ご存じのとおり、国ではG o T o トラベル等の自粛をしていますが、山梨県はグリーンゾーン構想を行っており、従来どおりで進めています。県内も増えてはいますが他県と比べると低いです。このところ静岡県が非常に多いです。一番気になるのは、山梨県はグリーンゾーン構想を行っていますが静岡、富士、富士宮はどのような対応を行っているのかということです。今後の対応として知事は学校の休業問題に際しては、教育委員会と協議し、臨時休業は出さないと思います。

(入月委員) コロナの状況は、静岡市を含めて出てきております。南部町は今が良いのですが、いつコロナが学校の中で起きるのかわからない現状だと思います。起きることを想定して考えていかないと、いざという時の対応ができないと思います。リモートの関係も対応、対策を考えておかなければならないと思いますが。

(教育長) 原則的にはできるところから取り組んでいかなければなりません。現在端末を準備中で来年の夏ごろには全ての環境が整います。現状の中では、何ができるのか先生方と相談していきたいと思っています。

(町長) 現在、学校での通信環境、端末の整備に取り組んでいますが、全国的な取り組みなので今年度中に全ての環境が整うことは難しいような気がするがその辺の予定は。

(事務局) 今の予定では端末の機械は今年度中に揃いますが、使用できる状態にするには設定

作業等が必要になります。峡南地区では情報センターを中心に設定作業等の入札を年度末に予定しており、設定の完了作業は7月ごろになる予定です。ただし、この設定作業は校内で使用するための設定であります。児童生徒が各家庭へ端末を持ち帰っても直ちに使える状態ではありません。家庭で使用するには、各ご家庭の通信環境に合わせた設定作業を自分達で個々に行う事が必要になります。

(入月委員) 先ほど話が出ましたが、コロナに罹った時の後遺症の恐ろしさを町民に周知する取り組みも有効な手段ではないかと思いました。

(教育長) 危険度も含めた注意喚起の指導を今後していきたいと思います。

(山本委員) 学校から発信することは子どもがいる家庭のみになりますので、地域の住民全体に広報で啓蒙した方が良いが、以前広報に掲載された内容は非常に細かく、高齢者などでは大変のような気がしました。段階を得ながらシンプルで分かり易いものの方が対応し易いのではないかと思います。

(町長) 以前に何度か掲載しました。今回は年末年始を控えていますので、単純なものを作成しチラシを配りたいと思います。

(佐野委員) コロナの予防に徹底していくのは良いが、コロナをあまり怖いものと植え付けるのは、仮に本町でコロナに罹った人が出た場合、その人達への偏見も怖いので十分配慮が必要ではないか。

(教育長) 啓蒙活動はしていかなければなりません。リスクの問題も含めて、今出された問題は学校現場に下ろしながら徹底していきます。町でもコロナ対策会議の場で協議して町民に対する注意喚起、啓蒙をしていこうと思います。

(2) 文化財の保護・保全、継承と周知（情報発信と有効活用）の活動

(山本委員) 情報発信は紙ベース、ネット、ホームページ等になると思います。興味のある人は公共のホームページを見るよりは、SNS等の口コミ情報を見に来る人が多いと思います。最初に来る人は、ありきたりな場所よりも、他の人が気付かない場所を探していて、逆に言うと紙ベースのチラシやマップ、さらにはホームページ等を探ることになり、巡り巡っています。それならば紙ベースでしっかりしたものを作成して置けば、他のものへ利用できるのではないかと思います。

(入月委員) ここ数年、南部町の文化財等は充実しているように思います。近藤喜則さんの資料室や道の駅には南部氏の関係の銅像も含めた施設が完成し、目に見えた充実が図られました。文化の町にふさわしい町づくりが行われています。今後は観光等も併せた情報発信を考えていかなければなりません。その際は生涯学習課だけではなく、町全体で組織を立ち上げ町が一体となり、各課が横断的に取り組む組織ができればよいと思います。

(町長) 某雑誌に奥山温泉が掲載されました。また、一昨日見ましたネットにも県内の秘境と言うことで、奥山温泉のことが事細かく載っていました。南部町も他からの受け入れ態勢が段々できてきたと思います。例えば、文化にしても南部氏発祥の地とか、近藤喜則資料館とか、それを次は如何に情報発信していくかということです。先日、有楽町の故郷回帰センターに行った際に理事長さんとお会いし、本町の様々な話をしてくま

た。いろいろな機会に我々の町の良さをアピールすることが私の仕事です。そして来町していただいた時には満足して帰っていただく、そういう体制を作らなければならないと思っています。

(山本委員) 昨今、東京から5千人が転出したと、2, 3日前のニュースに出ていました。東京集中から地方へ人が移住する状況がコロナ禍で出てきています。

(町長) 今は茨城県の人気があるようです。東京から近く、海はある、平野である、とのことでした。また、人材派遣の会社が淡路島に会社機能の移転を考えていて、島に行ってきた人の言葉を聞くと、海に囲まれて仕事ができる環境なので、生きている感じがすると言います。

(山本委員) やはり都会は味気ないです。そう考えると本町に来れば、空の青さなどいろいろなことに気づきます。自然回帰とまでは言えませんが、住み方を考え直す機会が来ているように感じます。

(町長) それだけに今が南部町も頑張りどころです。他に行ってしまうからでは遅いからです。

(教育長) 変わらない自然を中部横断道の開通を活用して、本町をアピールしていければと思います。いずれにしても、文化財は指定文化財ではありません。自然も含めまして、常に話題にしながら、古いものは大事にしながら新しいものを試行していけるようにしていければよいと思います。今、話をしていることと、次の議題である生涯学習のことについては、最終的には町づくりにどうつながるかという視点を常に持っていないと見失ってしまいます。

(3) 生涯学習施設の有効利用と多様な学習機会の充実

(佐野委員) 「南部ふるさとカルタ」を富沢小学校では児童会で考えていて、カルタ大会を計画しているようです。

文化館で各学校へ月に一度、各教室用に図書館の本を届けてくれています。休み時間も限られた中、子どもたちは教室でも直ぐに本を手にとり、大変喜ばれています。是非、今後も続けてほしいと思います。

(入月委員) 教育大綱や基本計画の一つの中に、あいさつ運動があります。町民会議を中心に町全体であいさつ運動ができないか、日頃から考えています。しかし、生涯学習課の事務局の方は他の仕事も背負っており、強く言えませんが、あいさつ運動等の展開はどうでしょうか。

(事務局) 今年度はコロナ禍の状況であらゆる事業が中止、又は新しい生活様式に即した形で各種事業を展開しております。町民会議につきましては、例年では夏冬の年2回開催し、その中であいさつ運動等を展開していかなければならないと思っています。

(入月委員) 生涯スポーツの関係の「スマイル南部～健康・長寿、日本一を目指して～」は、町民に大変インパクトを与える標語になっています。この取り組みは生涯学習課のスポーツだけではなく福祉保健課や他の課と共同した事業となっています。同じ様に「あいさつ日本一の町を目指す」取り組みが出来ればと感じています。

(教育長) ちょっとした視点の工夫で出来るものです。皆で知恵を出し合いながら、今後進めていければと思います。

(町 長) 来年のメイン事業になりますが、アルカディアを文化とスポーツの聖地にしようと思っています。現在整地している場所を多目的広場にする計画です。スポーツや遊びに来ながら文化に触れ合う、一大拠点になればと思っています。

(山本委員) 芝生広場があると小さな子どもが遊ぶイメージがあり、親同士のふれあいの場所にもなり、子育てのコミュニティーにもつながります。

(町 長) 経済的な活用策など、構想は広まっています。

(教育長) それぞれの部署で取組みをしています。皆でアイデア等を出していただければと思います。

(山本委員) 文化協会などの団体の活動状況は。

(事務局) 今年は文化祭に対する練習も出来なかったので中止にしましたが、ここにきて、そろそろ動き出そうとした矢先に第3波という形になってしまいました。今は様子を見ている団体がいるという状況です。

(山本委員) 構成員、参加人数などは保たれて、継続されていればよいが。

(事務局) 各団体とも徐々に高齢化してきているので、参加人数などは減少傾向にあります。

(山本委員) 以前は夏休み、冬休みの宿題で学校に作品依頼等がありましたが、最近ではなくなっているような気がします。如何でしょうか。

(教育長) 中学校では継続して行っていますが、今年は組織的に公開するような機会は行いませんでした。

(佐野委員) 栄小学校も行っており、文化発表会の時に体育館に掲示しています。

(教育長) 最終的に学校の各種取り組みがいろいろなものにつながり、町の文化レベルを押し上げればよいと思います。また、生涯学習が町づくりにつながることを共通認識を持って、今後も取り組んでいきたいと思っています。

(入月委員) 生涯学習では各種講座を展開していますが、町民はどのような講座を希望しているのか調査などはしていますか。

(事務局) 以前にアンケート調査を取った結果を基に各教室や講座を展開させながら、町民には数多くの講座を経験していただきたいので、参加者が少なかったものから見直しをするよう心掛けています。新規教室や講座については、事務局で協議し、新たに展開しておりますが、今後、参加者からのニーズを聞き取るなどして事業を進めていきたいと思っています。

(佐野委員) 何人かが集まり、やりたいことがあるならば、生涯学習課へ行き相談すれば、認めてくれるので非常にありがたいです。

(入月委員) ぴゅあ峡南でも年に何回か教室が開かれています。ぴゅあ峡南と生涯学習課は全く別の組織で関係はないのですか。

(事務局) ぴゅあ峡南にも役場から退職者が勤めています。そのため、教室を計画する際は、お互いに情報交換をしております。

(4) その他

(秘書政策監) 部活動とシニアへの活動の現状は。

(河内委員) 現状は許可を受けシニアだけの生徒もいますし、部活とシニア両方へ参加している生徒もおり、学校ではいろいろと認めてくれています。

(山本委員) 部活動とシニアとの関係は、学校には学習指導要領があり、部活動は教育課程に位置付けられています。シニアは他の団体等が教えていますので、学校としての評価は出来ません。しかし、校外活動としてシニアで活動している等の事実は記載します。

5 閉 会 (佐野委員)

皆さん大変ご苦労様でした。コロナの感染予防につきましては、町から各学校へ、様々な対応策等の予算付けなど、ありがとうございました。山日新聞の風林火山の中に、「今の子どもたちは親の世代が経験したことのない生活を過ごしている」と書かれておりました。しかし、児童生徒は元気に頑張っています。今後も応援のほど、よろしく申し上げます。